２）トマト灰色かび病の薬剤感受性検定

（１）目　的

灰色かび病は多犯性病原菌であり、薬剤耐性菌が発生しやすい病害として知られている。そのため効率的な薬剤防除を推進するため平成 21 年はメパニピリム水和剤について薬剤感受性検定を実施した。

（２）調査方法

① 供試材料

平成19年４月～９月に県内17市町からトマトの灰色かび病菌113菌株を採取した。採取方法は、木曽、山田の方法（植物病原菌の薬剤感受性検定マニュアル）に準じて各病斑から単胞子分離を行った。

② 検定方法

ア　保存菌株をPDA平板培地上で４日間培養後、さらにBLB蛍光ランプ（東芝FL40SBLB）を３日間程度照射して分生胞子を形成させた。滅菌水に胞子を懸濁し、10^4～10^6個／mlになるように調整した。胞子懸濁液に浸した直径８mmのペーパーディスクを0、0.3、3、30ppmになるよう薬剤を添加したFGA平板培地上に置床し、20℃暗黒下で４日間培養した。この検定方法での感受性のベースラインとされる3ppm添加培地での、菌糸生育の有無で耐性を判定した。

（3）結果及び考察

今回の検定で、メパニピリム水和剤に対する耐性菌は確認されなかった。

このことから、胞子の発芽管伸長阻害特性を有するメパニピリム水和剤の灰色かび病に対する予防効果は高いと考えられた。

表１　メパニピリム水和剤に対するトマト灰色かび病耐性菌率（%）

地点	大田原市	那珂川町	上三川町	鹿沼市	真岡市	芳賀町	栃木市	小山市	下野市	壬生町	大平町	藤岡町	都賀町	足利市	県
菌株数	2	16	3	39	6	10	7	5	2	7	5	2	3	6	113
耐性菌率	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0